



洋書輸入協会会報

Vol. 26 No. 2 (通巻297号) 1992年2月

理事会報告

12月20日(金)

(一) 11月分収支計算・予算対比表

12月6日(金)総務委員会での検討にもとづく神田俊二氏
(丸善)の報告を承認した。

(二) 会員の社名変更

新社名: Baker & Taylor International (旧社名:
Feffer & Simons / Baker & Taylor Inter-
national)

(三) 入会申し込み

次の3社の入会を承認した。

正会員

株式会社医学書院エムワイダブリュー

〒113 東京都文京区本郷3-23-14

代表者 荒木亮一 Tel. (03) 5689-5400

株式会社トーハン

〒162 東京都新宿区東五軒町6-24

代表者 上滝博正 Tel. (03) 3269-6111

賛助会員

有限会社オビワン・ケヌーピー

〒156 東京都世田谷区松原2-42-14

代表者 加藤 勉 Tel. (03) 5300-1618

(四) '92 TOKYO International Book Fair

10月31日(土)~11月4日(水)に開催されるブックフェアの開催準備状況につき、同展関係理事より報告と説明があった。

(五) オンライン国際会議

渉外委員長より、12月7日(土)~12月14日(土)に催した同会議への参加ツアー(参加者:協会会員9名、その他3名)について報告があった。

(六) その他

理事会報告	1	海外ニュース	5	総代理店ご案内	6
新年懇親会	2	文化厚生委員会だより		東京の坂と橋と文明開化(21)	7
海外ニュース	3	囲碁同好会納会	6	広告	8
洋書輸入協会史(68)	4	新入会員のおしらせ	6		

洋書輸入協会新年懇親会

正月の末広がり八日が恒例の懇親会になって随分長い年を経たように思う。睦月新春の仕事が始って、つく一息にアルコール分が残っている雰囲気の中で、240名の会員が、今年一年の幸いを挨拶に交わす。広い会場は過去最高の出席者を抱えても余裕があった。

今年の正月は暖い穏かな日和であった。上越の新幹線も雪の支障が無からうから、新潟の考古堂の風間さんが昨年にならって一番乗りかと思ったが、急に欠席ということであった。

午後5時の受付ロビーは椅子を欠いていたので、年配者へ配慮して並べて貰う。開演15分前にホールのドアを開いたが、もう少し早く開扉してよいだろう。但し、皆さんが揃って開会適当の頃合いとなるのは、定刻を過ぎること15分ぐらいであった。

文化厚生委員長渡辺洋販社長開会の挨拶、理事長海老

原丸善社長の本年の抱負、ブリティッシュ・カウンシルのフィオナ・クラークさんの祝辞が続く。

この日の前日に米国のプッシュ大統領が自動車業界のトップを率いての、賑やかな訪日であったので、クラークさんは英国の知的な書籍を静かに深く売り込んでいるという「かたち」になった。

乾盃の音頭を紀伊國屋の松原社長にお願いする。

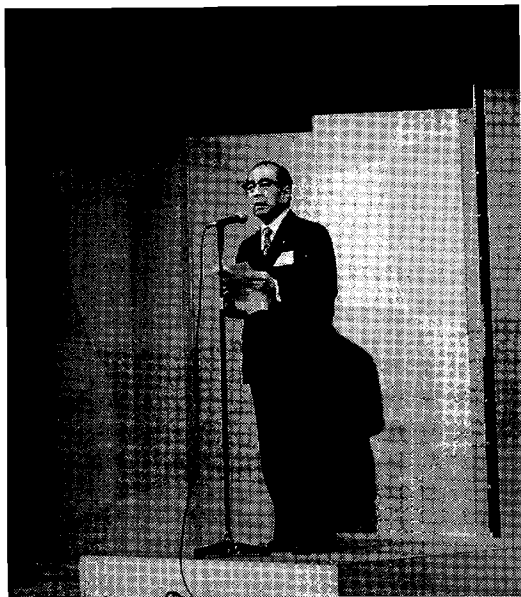
宴会に移り、盛んな懇談、8時、東光堂石内会長の三本締めまで大勢の方が残られた。料理の量も適当であったと思う。ワインの本数を減らして、ウイスキーの増加であろうか。

東京プリンス・ホテルの担当萬瀬（よろぜ）君が、「来年の八日は…」と切り出したので、「金曜。いい日取りだね」と答えた。（M K）



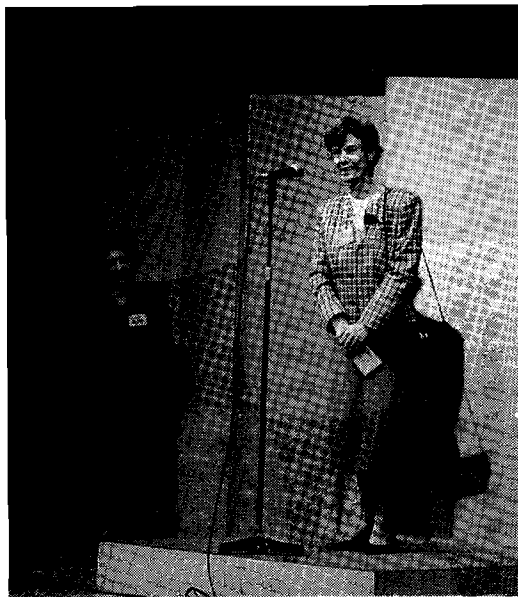
賀詞交歓風景

（写真提供・会報委員会）



海老原理事長

(写真提供・会報委員会)



Mrs. Fiona Clarke
The British Council

海外ニュース

4カ国135人の出版社トップが出版業界の将来を予測

米英独仏の大手出版社のトップに対するアンケートの結果によると出版業界の今後10年について各国トップは全般的に楽観的な見方をしていることが明らかとなった。

4カ国404人の経営トップに対するアンケートに対し135人から回答あり（回答率は33%）、内訳は米31人、英58人、仏26人、及び独20人となっている。アンケートの主な結果は以下の通り。

- 今後3年間の書籍市場の成長率は年率8.3%から9.4%の間であろうと予測している。仏が最も高く、米は最も慎重であった。英独は平均値の約8.7%となっている。
- 今後3年間の市場成長は過去10年の様な価格の値上がりによるのではなく、主に販売量のアップによって達成されると予測している。回答者の67%が市場成長は量のアップによると予測しているのに対し、33%が価格アップによると回答している。
- 米国出版社は中堅の著者のアドバンスが毎年3%程度上昇すると予測している。英米独の各出版社の予測は

各々2%、1.7%、4.5%、となっている。（但し、大物ベストセラー作家は別。）

- 全回答者がエレクトロニック・エンターテインメントは出版に対しマイナスの影響を及ぼすと考えており、とりわけ仏出版社が最も悲観的となっている。欧州出版社では、他の娯楽メディアは出版にマイナスの影響があるという回答が圧倒的なのに対し、米国出版社は強い肯定も否定も示していない。しかし、回答者の60%はニューメディアの出現により出版社はより競争力をつける努力が必要になると考えており、72%の人が出版業界はノンブック・メディアに進出することで対応すべきであると信じている。
- 回答者全員が1992年のEC単一市場の出現を大きな販売機会ととらえており、特に米国出版社（65%）の期待が他のグループ（英47%、仏46%、独54%）に比べて高くなっている。英独仏の出版社はすでに欧州で活動しているため誤った安心感を持っているかもしれないが、米国出版社はこの市場で得るものが多く失うものは少ない。英国出版社は特に英語圏からの競争者に注意すべきであるとアンケートの編集者は語っている。

—Publishers Weekly 12月6日号から抜粋—

—(株)伊國屋書店提供—

洋書輸入協会史 (68)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

76 サントル ドュ リーブル フランセ 輸入業務を停止する

76.1 サントル設置の経緯とその後の情勢

洋書の輸入が全く跡絶えていた戦後の昭和24(1949)年に、英国に続いてフランスが、フランス使節団(国交回復後は大使館)経由のフランス書輸入に踏み切ってくれた。その後に民間貿易が再開されたが、フランス使節団は民間貿易下における仏書の輸入のため特別な機関(民間団体)を設けることを検討し、昭和25('50)年12月から使節団経由の事務を、Centre du Livreにおいて扱うと発表した。その責任者としてフランス使節団は、H. Bernardに就任することを依頼した。同氏は日本女性を妻としている程の親日家であった。(以上の経緯については、JBIA 会報 Vol. 21 No. 11~12、昭和62年 11~12月号所載、協会史 ②5 および ②6 の26章「フランス使節団経由のフランス書輸入のその後、及び Centre du Livre 設置のこと」に詳しい。)

その後のサントルは、ベルナール氏と大島氏とのコンビで仏書輸入を取り次ぎ、昭和28('53)11月には、戦後日本初の我々同業会とサントル及びフランスの関係諸団体との共催による、大規模な「フランス図書文化展」を開催して成功させ、その後の各国の展示会開催の先駆となるなど、仏書輸入だけでなく日仏双方の文化交流に大きな貢献を果していた。

しかし民間貿易による日本の洋書輸入業者とフランスの各出版社との直接取引は年々その量を増し、サントルは次第にその存在意義を薄めつつあったというのが当時の情勢である。

76.2 ベルナール氏の急逝と名称及び委員会形式への変更

昭和35(1960)年1月2日、Centre du Livre Francais の M. Henri Bernard が急逝せられたことは、前号の75.2に掲載したが、当時のサントルは、月額200万円のオーダーがないと維持出来なかつたと言われていたので、その存続を懸念する向きがあった。早くも同月の中旬には、フランス大使館の考えとして、3~4人の委員会のよう

な形としたいとしているとの話が伝わってきている。

昭和35(1960)年2月10日の理事会では、サントルが名称を変更し、Le Livre Francais とした旨が報告された。更に2月18日の理事会に、フランス大使館の文化部長が Pierre Guillery 氏他2名の仏人と共に出席、この3名(Guillery 氏が責任者)及び在日仏人数人で委員会を作り、サントルの事業を引き継ぐと紹介された。そしてフランス大使館文化部としては、書籍の輸出を通じ、日仏文化の交流を促進する意味において、この事業を援助する意向を示した。

76.3 パリのサントル突然閉鎖、事務は Hachette が代行

ところが、4月に入ってパリのサントルが突然閉鎖される旨の知らせが入った。昭和35('60)年4月11日付 JBIA No. 97では次のように会員に知らせている。

記

Centre Internationale du Livre, Paris 閉鎖

サントル ドュ リーブル フランセから Centre Internationale du Livre, Paris が4月初旬突然閉鎖した旨通知があった由申し越されました。取り敢えず理事会として会員注文未供給分を Hachette が代行してくれる様、サントル ドュ リーブル フランセへ依頼し、同時に Hachette へもその旨依頼しました。今後の注文に対しては然るべく御指定下さい。(以上)

この件は、同年6月1日付、JBIA No. 103によると次のような形に落ち着いている。

記

サントル ドュ リーブル フランセが

Hachette, Paris の事務を扱うことについて

3月16日の懇談会で、サントル ドュ リーブル フランセが M. Pierre Guillery を新経営者に迎えて運営委員会制により再発足し、フランス大使館が文化交流援助の面から財政的に援助し、我々業者は商業的にこれを利用することになった旨説明致しましたが、今般この線では Hachette, Paris の事務を取り扱う事となった旨サントルから発表されました。

未だ詳細については取極めが出来ておりませんので、
取り敢えず注文書の郵送と Claim の代行をする由、即ち
注文書を正副 2 通送れば郵税サントル負担で送り、
Claim については電話又は手紙で申出になれば、仏文の
手紙を書いて交渉して下さるとの話ですから、御希望者
は何卒御利用下さい。(以下略)

76.4 サントル、日仏会館に移る

9 月に入ると、サントルの移転が話題となっていたが、
年末となった昭和35 ('60) 年12月13日の J.B.I.A. No. 117 の
懇談会報告では、その第 4 項に次のように記している。

記

サントル ドュ リーブル フランセの件

本年初め M. Bernard 死去に伴い委員会制により運営
されておりましたが、今般東京都千代田区神田駿河台 2
の 3 日仏会館内在日フランス商工会議所代表者 M.
Roger Pericat、同所顧問 松原明夫氏、MTM M. Andre
Chevallier を責任者として運営されることになりました。

実務は従来通り松岡、今村両氏が御担当になり、大島
辰夫氏は囑託として主として展覧会等に御協力下さる事
になりましたので、左様御承知下さい。(以上)

76.5 サントル輸入業務を停止する

年が変り昭和36 ('61) 8 月の理事会には、サントルか
らの通知として、フランスの M.L.F. が海外輸出をやらな
くなった、6 月 1 日以降のオーダーは全部ストップする
とのことが報告された。そしてこの件は 9 月15日付の
J.B.I.A. No. 139 で次のように詳細に会員に知らされてい
る。

記

頭記の件についてサントルから、8 月初め本国 M.L.F.
社が 6 月 1 日付の注文から送本を停止した模様であり、
多分支払いの関係と思われるので、各書店から直接 M.L.
F. 社へ供給継続方の書状を出すようにとの電話連絡に接
しました。

何分突然でもあり理由もはっきりしませんので、本会
としては取り敢えず 8 月 8 日付書状をもって抗議すると
共に、理由を折り返し回答するよう要求し、また一日も
早く解決方希望を申し入れました。

これに対し 8 月16日付で返事が参りましたが、本国 M.
L.F. 社が輸出を止めたもので、更に雑誌組合経由の予約
雑誌の取扱いも止めたいとの意向を明らかにして参りま

した。

尚、直接出状された会員に対しても M.L.F. 社より同様
の返事が参っておりまして、同社が輸出を停止したこと
を確認致しましたので左様御了承の上、この際ご精算下
さるようお願い致します。

また雑誌組合も停止を希望致しましたので、予約期間
と予約金の関係をよくご連絡下さる様お願い致します。

(以上)

以上のサントルの輸入業務停止の経緯説明には、いさ
さか釈然としない部分もあるが、とにかくサントルが10
年間の仏書輸入業務を停止したことは事実であり、以後
はすべて日本の輸入業者個々の取引に委ねられることと
なった。サントルの存在意義が次第に薄められてきてい
た情勢の必然的な結果であったとはいえ、この10年間に
サントルが日仏間の文化交流に果たした役割は大きい。こ
こに記して謝意を表する。

77 ソ連メジクニーガのズメウル氏来日

77.1 ズメウル氏訪日の知らせ到着

ソ連の図書輸出入公社の最高責任者であるズメウル氏
が、日ソ翻訳懇話会の招待状を受け取り、これに対し自
らの費用で来日するという知らせが届いたので、関係者
が昭和35 ('60) 年 3 月26日に丸善ピーコックに集まり同
氏訪日の日程、行事を打ち合せた。

同氏訪日の目的は、ソ連書の日本への輸出の拡大と、
日本語への翻訳の推進である。しかしメジクニーガの
取扱い品目は、図書だけに限られている訳ではなく、日
本の取引先には商社も多いので、そちらの方面との接触
も多かろうと予測はされたが、取り敢えず出版関係者が
集まり、その中に洋書輸入協会から関係者が参加するこ
ととなった。(続く)

海外ニュース

商標訴訟で Merriam-Webster が Random House に勝訴

NY 州における商標権侵害の陪審審理で M-W 社の訴
えが認められた。本年 2 月の M-W 社の告訴によると、
“Webster's Collegiate” dictionary series の商標が
“Random House Webster's College Dictionary” の出

版により侵害されたというもの。陪審は M-W 社に180万ドルの填補損害賠償金と50万ドルの懲罰的損害賠償金を認めた。

M-W 社は辞書に“Webster”の語を RH 社が使用する権利は認めているものの、RH 社の辞書のタイトルとデザインがマーケットでの混乱を生んでいるとしている。陪審判決は RH 社の侵害は意図的で、RH 社のタイトルは M-W 社の“Webster's Collegiate”という商標を損傷していると認めた。RH 社スポークスマンは判決にショックと混乱を隠さず、同社の辞書が M-W 社の商標を侵害していないものと確信しており、今後どのような手続きをとるか考慮中と言っている。

—B.P.レポート10月28日号から抜粋—
—(株)伊國屋書店提供—

文化厚生委員会だより

囲碁同好会納会

囲碁同好会は昭和42年(1967)1月に福本書院、福本初太郎氏(故人)を会長に、副会長海外出版貿易、黒田通氏(故人)、幹事に東光堂書店、石内茂吉(現会長)、洋販、渡辺正広(現会長)の4氏により設立され、すでに4半世紀になります。当時の設立趣意書には『当輸入協会の中のゴキチ(碁狂)数人相寄り相集いて協議し、「洋書輸入協会囲碁同好会」を結成することになりたり。従いて本会の運営方針は純粹アマ精神に徹するものにして、段位、級位はあるが如く、無きが如く、昇段昇級、落段落級変幻無極、すべて相対づくにて仲良く相談し納得し決定すべきものなり。云々』とあります。爾来20有余年、夏には箱根での一泊碁会、暮れには納会と一度も途切れることなく続いてきました。

さて、今年の納会は12月6日高田馬場囲碁クラブにおいて同好の士17名相集い烏鷺を戦せました。設立当初より指導して頂いている専門棋士の石毛七段は残念ながら風邪のため出席されませんでした。NHK杯で活躍中(12月15日TV放映の3回戦で加藤正夫九段に惜敗)の、早碁で有名な時本八段が出席され、指導碁打って頂きました。8時より席を中華料理店に移し、現囲碁同好会々長、石内東光堂会長の音頭で乾杯、12月の宵の一時を歓談のうちに過ごしました。

毎月第一月曜日(除く1、8月)6時より例会を高田馬場囲碁クラブで開いておりますのでご参加ください。

会費は1回千円です。

(洋販 武田)

新入会員のおしらせ

このたび次の方がたが入会されました。

正会員

株式会社医学書院エムワイダブリュー

代表者 荒木亮一

〒113 東京都文京区本郷3-23-14

Tel:(03)5689-5400 Fax:(03)5689-5402

株式会社トーハン

代表者 上滝博正

〒162 東京都新宿区東五軒町6-24

Tel:(03)3266-9573 Fax:(03)3266-8943

賛助会員

有限会社オビワン・ケヌービー

代表者 加藤 勉

〒156 東京都世田谷区松原2-42-14

Tel:(03)5300-1618 Fax:(03)5300-1615

総代理店ご案内

(株)国際書房

TEL (03)3292-4951

FAX (03)3291-1171

Schmidt Periodicals (Germany)

Recueil des Décisions du Conseil d'Etat du Tribunal des Conflits et des Jugements des Tribunaux Administratifs. (Recueil Lebon) Vol. 1; 1800/15 (1839) to 2. Ser., Vol. 114 (1944) with general indexes (ca. 204 Vols.) Reprint May/June 1992 ¥4,680,000
-ditto-

Years 1945-1971 with general indexes ¥1,194,000

The Belli Tapes/Promedion (U.S.A.)

All video Tapes

お茶の水の橋とニコライ堂〔5〕 明治期のロシア文学(1)

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

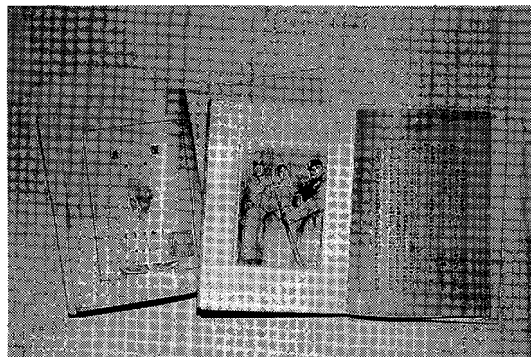
「秋は九月中旬の事で、一日自分がさる樺林の中に坐つてゐたことが有った。今朝から小雨が降りそゞぎ、その晴れ間にはおりおり生ま暖かな日かげも射して、まことに気まぐれな空ら合ひ」。これは明治21年二葉亭四迷がツルゲニエフ原作『獵人日記』を翻訳した『あひびき』の冒頭の一節である。この言文一致と呼ばれた口語体で表現された初めての翻訳文は、藤村、獨歩、花袋といった当時の若い文学者に強烈な印象を刻み、以降の日本文学に大きな影響を与えることになった。『あひびき』はそういう特筆すべき意味をもつ一編であった。

ロシア文学の翻訳は東京外国語学校でロシア語を習った二葉亭四迷によって本格的に進められるようになったが、そもそものロシア物は明治15年頃から出始めた『虚無党』関係のフィクションともドキュメントともいえる物語で、『魯帝弑逆記』『魯国奇聞 烈女之疑獄』などロシアの革命的民主主義者の政治活動を記したものに始まる。ただその前明治13年にロシア物と思われる脚本体の『西洋歌舞伎春の夢』という作品が皆夢楼三光訳で『伊勢古事記 日曜叢誌』に発表されたが、これは原作も原作者も不明であった。しかし文学といえるものでは、以前紹介した『露和袖珍字彙』の編者、高須治助が明治16年にプーシキン原作『大尉の娘』を抄訳した『露国奇聞 花心蝶思録』が嚆矢といわれている。これはロシア語原本を底本に翻訳し、『東京新繁昌記』の著者として有名な服部撫松が校閲したもので、内容が英国小説風に仕立てられたのは撫松の手が入ったためとみられている。高須治助は東京外語露語科を中退して大蔵省の翻訳課に勤務しながらロシア文学、特にプーシキンの最初の紹介者として知られるようになった。

さて、明治におけるロシア文学の巨星は二葉亭四迷であることは論を待たない。東京外語在学中の明治18年には既に長谷川辰之助の本名でベリンスキーの2作を翻訳公刊し、翌年の明治19年には冷々亭杏雨というペンネームでツルゲネフの『父と子』を『通俗虚無党形氣』という書名で訳したが未刊に終わった。そして『あひびき』以降ロシアの思想・文学の紹介や翻訳を精力的に発表し、明治期近代文学の確立に大きく貢献する。

明治初期のロシア文学扶植の歴史で逸することのできないもう一人の大きい存在は内田魯庵であった。ドストエフスキーの『罪と罰』は明治25-26年に彼によって初めて訳され（英語からの重訳）ロシア文学翻訳史上不朽の事績となったものであるが、これは尾崎紅葉からドストエフスキーのことを聞いて早速丸善で1部だけ残っていた英訳本を求めたもので、その時入荷した3冊は他に坪内逍遙と森田思軒が購入したということである（木村毅『丸善外史』）。魯庵のもうひとつの大きな訳業はトルストイの『復活』であった。これも英語からの重訳で、明治38年に『日本新聞』に連載し、単行本では明治41-43年に丸善から上梓した。前に述べた芸術座上演の『復活』はフランスの劇作家で詩人のアンリ・バタイユの脚色を島村抱月が訳して加筆したという説と、バタイユからは劇中歌の趣向を取り入れただけで脚色は抱月がこの魯庵の訳から直接おこなったものだという木村毅の考証とがあるという（大笹吉雄『日本現代演劇史』）。

トルストイの初訳は二葉亭四迷の同窓の森田という人物による明治19年の『泣花怨柳 北欧血戦余塵』（『戦争と平和』）であるといわれているが、明治35年に丸善の『学燈』に『馬鹿者イワン』を連載した魯庵によってもトルストイの紹介は盛んにおこなわれた。彼はドストエフスキーやトルストイを翻訳すると同時に明治33年からは丸善の『学燈』（今の『学燈』）の編集長となって約30年、ロシア文学に関する論説・紹介文を数多く掲載してその啓蒙に努めると共に、彼の生涯を通して日本の近代文芸・文化の振興に大きな足跡を残した。



『復活』（丸善刊）とその挿絵

覆刻版

現代アメリカ文学 初版本叢書

THE FIRST EDITION LIBRARY



この叢書は、1920年代から50年代にかけて刊行された

現代アメリカ文学を代表する優れた作品を、現在では極めて入手の困難な初版本から覆刻したもので、刊行当時のテキストを正確な形で提供します。また、本文はもちろんですが、ジャケット、装丁、前付け、遊び紙、挿絵など、(初版本の誤りを含めて)すべてを原型通りに忠実に再現しているところが、他のリプリント版とは異なる本書の特長です。研究者にも愛書家にも、共に喜んで頂ける美しい仕上りを是非お手にとって御覧下さい。スリップ・ケース付。

定価 各7,870円(消費税別)

新入荷

- | | | | |
|-------------------------|---------------------------------------|--------------------------------|--|
| ● アンダーソン
S. Anderson | ワインズバーグ・オハイオ ('19)
Winesburg, Ohio | ● フィッツジェラルド
F.S. Fitzgerald | 楽園のこちら側 ('20)
This Side of Paradise |
| ● ウィラ・キャザー
W. Cather | 私のアントニア ('18)
My Antonia | ● シンクレア・ルイス
S. Lewis | メイン・ストリート ('20)
Main Street |
| ● フォークナー
W. Faulkner | 響きと怒り ('29)
The Sound and the Fury | ● ナサニエル・ウェスト
N. West | ミス・ロンリーハーツ ('33)
Miss Lonelyhearts |

在庫

- | | | | |
|--------------------------------|------------------------------------|---------------------------|---|
| ● フォークナー
W. Faulkner | 死の床に横たわりて ('30)
As I Lay Dying | ● ヘミングウェイ
E. Hemingway | 誰かのために鐘は鳴る ('40)
For Whom the Bell Tolls |
| ● フィッツジェラルド
F.S. Fitzgerald | 偉大なギャツビー ('25)
The Great Gatsby | ● ケラワック
J. Kerouac | 路上 ('57)
On the Road |
| ● フィッツジェラルド
F.S. Fitzgerald | 夜はやさし ('34)
Tender is the Night | ● スタインベック
J. Steinbeck | 二十日鼠と人間 ('37)
Of Mice and Men |
| ● ヘミングウェイ
E. Hemingway | 日はまた昇る ('26)
The Sun Also Rises | ● スタインベック
J. Steinbeck | 怒りの葡萄 ('39)
The Grapes of Wrath |
| ● ヘミングウェイ
E. Hemingway | 武器よさらば ('29)
A Farewell to Arms | ● トマス・ウルフ
T. Wolfe | 天使よ、故郷を見よ ('29)
Look Homeward, Angel |

続巻予定(1992年刊行予定)

- | | | | |
|----------------|---------------------------------------|----------------|------------------------------------|
| ● E. Caldwell | Tobacco Road ('32) | ● C. McCullers | The Heart Is a Lonely Hunter ('40) |
| ● R. Chandler | The Lady in the Lake ('43) | ● J. O'Hara | Appointment in Samarra ('34) |
| ● W. Faulkner | Absalom, Absalom! ('36) | ● M. Rawlings | The Yearling ('38) |
| ● W. Faulkner | Light in August ('32) | ● J. Steinbeck | Cannery Row ('45) |
| ● W. Faulkner | Soldiers' Pay ('26) | ● J. Steinbeck | East of Eden ('52) |
| ● J. Heller | Catch-22 ('61) | ● W. Styron | Lie Down in Darkness ('51) |
| ● E. Hemingway | The Old Man and the Sea ('54) | ● R. P. Warren | All the King's Men ('46) |
| ● K. Kesey | One Flew Over the Cuckoo's Nest ('62) | ● T. Wolfe | Of Time and the River ('35) |
| ● H. Lee | To Kill a Mockingbird ('60) | ● H. Wouk | The Caine Mutiny ('51) |
| ● N. Mailer | The Naked and the Dead ('48) | ● R. Wright | Native Son ('40) |

Collectors' Reprints, Inc.

日本総代理店 ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

1992年2月 通巻第297号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎ 3271-6901 FAX. 3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329